

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	高齢者クラブ育成支援事業	会計	一般会計	事業No.	188	施策順No.	33-008
		事業種別	政策・重点	予算科目	3-1-4-15-3		
政 策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	介護高齢課		
施 策	33 共に支えあう地域福祉の推進	事業期間	開始	終了			

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象 誰、何に	65歳以上の住民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
		具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		市内在住の65歳以上の方の人数	28740	29020	29597	29615	29523		
	意図 対象をどう変えるか	高齢者の生きがいづくり、健康づくりを図り、地域活動への参加し、地域の支え合いの担い手となる							目標達成度 B
		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	
		高齢者クラブ会員数／65歳以上人口＊100	24	22	21	22	21	21	

22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】

高齢者クラブ会員の高齢化、役員のなり手不足等により、クラブ活動の維持が課題となっている。

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	本格的な長寿社会を迎えた現在、「自立性、共同性、地域性」を基調として生きがいと健康づくり活動を実践し、又、クラブ会員相互の親睦を深め、地域活動にも積極的に参加することを目的として高齢者クラブが組織されている。地区単位の高齢者クラブ活動の支援と、連合会としての高齢者クラブと両方を支援する。クラブへの補助金交付が事業の中心となる。		
22年度事業内容	事業内容	名称	活動量・単位
	○補助金の交付(市高連加入分、未加入分) ○飯田市高齢者クラブ連合会 事務局業務 市高連加入26クラブ(会員数50人以上の単高25クラブ 30～49人の単高1クラブ) 会員数計 1,716人 未加入76クラブ(会員数50人以上の単高58クラブ 30～49人の単高13クラブ 20～29人の単高 4クラブ 10～19人の単高 1クラブ) 会員数計 4,489人 ○補助金交付要綱を策定	1 補助する高齢者クラブ数 2 高齢者クラブ会員数 3(1)連合会加入クラブ (2)連合会未加入クラブ	1 102クラブ 2 6,349人 3(1)26クラブ (2)76クラブ
23年度実施計画	○補助金交付要綱に基づき、補助金の交付(市高連加入分、未加入分) ○市内独自活動の老人クラブの実態把握調査を継続実施し、活動支援のため補助金を交付。広報も利用。 ○飯田市高齢者クラブ連合会 事務局業務 市高連加入26クラブ(会員数50人以上の単高25クラブ 30～49人の単高1クラブ) 会員数計 1,716人 未加入88クラブ(会員数50人以上の単高62クラブ 30～49人の単高18クラブ 20～29人の単高 6クラブ 10～19人の単高 2クラブ) 会員数計4,900人	1 補助する高齢者クラブ数 2 高齢者クラブ会員数 3(1)連合会加入クラブ (2)連合会未加入クラブ	1 114クラブ 2 6,616人 3(1)26クラブ (2)88

3 事業コスト

事業費	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	特定財源	国庫支出金 1,860		1,660	
事業費	特定財源	県支出金 1,860	2,971	1,660	(県) 老人クラブ活動助成事業補助金(国1/3、県1/3) (そ) 高齢者福祉基金利子からの寄付金
	起債				
事業費	その他	100	100		
	一般財源	3,845	2,365	3,845	
計 (A)		7,665	5,436	7,165	
正規職員所要時間					
臨時職員等所要時間					
人件費計(B)			0		
トータルコスト A+B			5,436		

4 事業に対する市民や議会の意見

- ・組織のあり方を再検討し、自立した組織となるよう検討してほしい。(社会委員会)
- ・高齢者の生きがいづくりの観点から、地域独自の活動をしているクラブへの支援充実を図ってほしい。(社会委員会)

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民が共に日常生活を支え合う	施策の成果指標又はムツ指標	近隣で支え合いができて市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	補助金があるおかげで活動できるという声がある。補助金交付は施策の目的達成に大きく貢献している。		
	後期に向けた課題	補助金申請事務の簡素化		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	補助金交付要綱を作成し、適切な補助金交付に努めた。		
	後期に向けた課題	補助金以外での支援のあり方検討		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	受益者負担は無し。市の関与程度は適切。		
	後期に向けた課題	必要に応じて、関与の程度を強めなければならないケースが増えてくる。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	主体は高齢者クラブ会員。クラブ活動を通して、生きがいづくり、健康づくり、仲間づくりの役割を果たす。市は補助金を交付して支援。		
	後期に向けた課題	クラブ会員数減少への対応		
全体を通じて	4年間の振り返り	補助金交付が事業の中心だった。		
	後期に向けた課題	補助金申請事務の簡素化。会員数が減少し、クラブ運営に支障をきたす場合があるため、補助金以外での支援のあり方を検討する必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

☐ 完了	☐ 拡大	☐ 縮小	☐ 別事業に統合	☐ 休止廃止	☒ 現状維持	☐ 目的見直し	☒ 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--